Press Release

2026 年 11 月 5 日

蜷川実花 with EiM 展 望む世界、そして消えるもの Still, we are longing PR 事務局

約 3 か月で 25 万人を魅了した EiM が、3 年の時を経て再び TOKYO NODE へ

変わりゆく時代と世界を見つめ、新作を携えて挑む“第二章”

蜷川実花 with EiM 展

望む世界、そして消えるもの Still, we are longing

2027 年 4 月 29 日（木・祝）～9 月 26 日（日）虎ノ門ヒルズ・TOKYO NODE にて開催



アーティストの蜷川実花と大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーを務めた宮田裕章をはじめ、各分野のスペシャリストが集うクリエイティブチーム EiM が挑む大規模展覧会「蜷川実花 with EiM 展 望む世界、そして消えるもの Still, we are longing」を 2027 年 4 月 29 日（木・祝）～9 月 26 日（日）まで、虎ノ門ヒルズ ステーションタワーの情報発信拠点「TOKYO NODE」にて開催いたします。

蜷川実花 with EiM（エイム）の大規模な展覧会としての歩みは、2023 年、TOKYO NODE の開館記念企画として開催された「蜷川実花展 Eternity in a Moment 瞬きの中の永遠」から本格的に始まりました。蜷川実花にとって過去最大規模となった同展では、映像、写真、立体、空間演出などを融合した大規模なインスタレーションを展開し、81 日間で 25 万人を超える来場者を記録。その後も、京都をはじめ日本各地で、その土地の歴史や記憶と呼応しながら、表現の領域を広げ続けてきました。その活動は国内にとどまらず、台

北での展覧会やヴェネツィアでの作品発表など、アジアや欧州へと展開。さらに 2026 年 12 月には、フランス・パリのグラン・パレで蜷川実花 with EiM として欧州初となる大規模展覧会の開催も決定するなど、国際的にもその存在感を高めています。TOKYO NODE から始まった EiM の挑戦は、さまざまな土地や文化との出会いを重ねながら、さらなる進化を続けています。

前回の TOKYO NODE での展覧会から約 3 年。私たちを取り巻く社会も、人々が見つめる世界も、絶えず揺れ動き、変化を続けています。国内外で多様な経験を積み重ねてきた EiM は、再び TOKYO NODE を舞台に、変わりゆく時代と世界に向き合います。

私たちは同じ時代を生きながら、異なる価値観や願いを抱き、それぞれの眼差しで世界を見つめています。その願いは、ときに響き合い、ときにすれ違いながら、私たちの生きる世界をかたちづくっています。

私たちが望む世界がかたちになるとき、その陰で何が見えなくなり、誰の願いが届かなくなるのでしょうか。本展は、一人ひとりが惹かれる美しさと、その外側にある存在に目を向けます。異なる願いが生み出す光景を通して、望む世界と、そこからこぼれ落ちるものとの関係を問いかけます。

こうした問いを起点に構想される本展は、新作を中心とした大規模展覧会です。25 万人を魅了した前回展を出発点に、国内外で積み重ねてきた 3 年間の経験を携えた EiM が、再び TOKYO NODE で次なる挑戦へと踏み出します。進化を続ける蜷川実花 with EiM の“第二章”が、ここから始まります。

蜷川実花 with EiM

写真家・映画監督・現代美術家の蜷川実花と、科学者・アーティスティックディレクターの宮田裕章、プロダクションデザイナーの ENZO、クリエイティブディレクターの桑名功、照明監督の上野甲子朗、音楽プロデューザーの剣持学人、映像ディレクターの名児耶洋、テクニカルアートディレクターの上田晋也、ディレクターの澤田雅之、ディレクターの打越誠、映像ディレクターの ZUMI、コミュニケーションデザイナーの吉柳さおりらで結成されたクリエイティブチーム。プロジェクトごとに多様なチームを編成しながら活動する。



主な作品発表に、「胡蝶の旅 Embracing Lights」（安比Art Project、2022 年）、蜷川実花「残照 / Eternity in a Moment」（小山登美夫ギャラリー前橋、2023 年）、「Eternity in a Moment 瞬きの中の永遠」（TOKYO NODE、2023 年-2024 年）、「蜷川実花展 with EiM：儚くも煌めく境界」（弘前れんが倉庫美術館、2024 年）、「深淵に宿る彼岸の夢」（森の芸術祭 晴れの国・岡山 満奇洞 2024 年）、「蜷川実花展 with EiM：光の中で影と踊る」（南城美術館、2024 年）、「蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影」（京都市京セラ美術館、2025 年）、「蜷川実花 with EiM INTERSTICE」（Palazzo Bollani、ヴェネツィア、2025 年）、「蜷川実花 with EiM：Pulse of Lives」（史跡佐渡金山、2025 年）、「蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影」（華山 1914 文化創意産業園区、台北、2026 年）、「KYOTO NIPPON FESTIVAL 2026 -時をこえ、華ひらく庭-」（北野天満宮、京都、2026 年）、「空だけは、こっちを見てこなかった」（前橋国際芸術祭 2026、前橋、2026 年）、「Mika Ninagawa with EiM：Alive with Shadows」（グラン・パレ、フランス、2026 年）など。

■蜷川実花（にながわ・みか）／ 写真家・映画監督・現代美術家



写真を中心として、映画、映像、空間表現も多く手掛ける。

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010 年ニューヨークの Rizzoli から写真集を出版。

『さくらん』（2007 年）、『ヘルタースケルター』（2012 年）、『Diner ダイナー』（2019 年）など 5 本の長編映画、および Netflix オリジナルドラマ『FOLLOWERS』（2020 年）を監督。

近年は蜷川実花 with EiM として、クリエイティブチーム「EiM（エイム）」とともに大規模なインスタレーションを手掛けるなど、表現の幅を広げている。

これまでに写真集 120 冊以上を刊行、個展 150 回以上、グループ展 130 回以上と国内外で精力的に作品発表を続ける。京都市京セラ美術館で開催された個展「蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影」（2025 年 1 月～3 月）では、25 万人を動員した。2026 年 12 月 16 日～2027 年 3 月 21 日まで、フランス・パリのグラン・パレにて大規模個展「Mika Ninagawa with EiM：Alive with Shadows」を開催予定。

最新の写真集に『mirror, mirror, mirror』（光村推古書院、2026 年）、『Dancing with Shadow in the Light』（bookshop M、2026 年）がある。

■宮田 裕章（みやた・ひろあき）／ 科学者・アーティスティックディレクター



慶應義塾大学医学部教授。データサイエンスを基盤に、医療・政策・社会設計など多様な領域を横断しながら、人と社会の未来を描く科学者として活動。科学の知性と感性の表現をつなぐ実践を通じて、多様な領域と共創を行っている。クリエイティブチーム EiM ではアーティスティックディレクターとして活動。

2025 年に開催された日本国際博覧会では、テーマ事業プロデューサーを務め、Better Co-Being パビリオンを構築。アーティストとして「共鳴の空」、宮田裕章 with EiM として「最大多様の最大幸福」という作品を展示した。

展覧会概要

・名称：蜷川実花 with EiM展 **望む世界、そして消えるもの Still, we are longing**
・会期：2027年4月29日（木・祝）～9月26日（日）
・会場：TOKYO NODE GALLERY A/B/C
（東京都港区虎ノ門2-6-2 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 45F）
・チケット情報：2027年春に発表予定
・主催：蜷川実花 with EiM展2027実行委員会
・WEB（ティザーサイト）：https://www.tokyonode.jp/events/eim2027/index.html
・公式 SNS：
Instagram（**@ninagawaeim27tn**）https://www.instagram.com/ninagawaeim27tn/
X（**@ninagawaeim27tn**）https://x.com/ninagawaeim27tn

※画像はイメージです。※掲載内容はすべて 2026 年 11 月 5 日（木）現在の予定です。内容は予告なく変更・中止する場合があります。